

企業ニュース 島津製作所

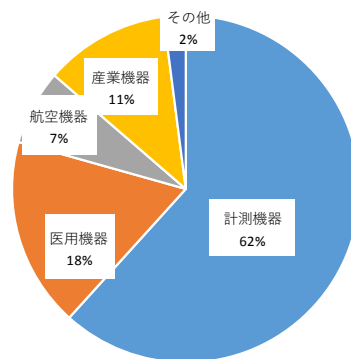
(東証1部：7701) <https://www.shimadzu.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

老舗計測機器メーカー

1875年に教育用理化学器械メーカーとして創業。日本初の据置用蓄電池（1904年）、医療用のX線装置（1909年）などを開発。1917年に現社名に変更した。ガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフ、質量分析計など計測機器の老舗メーカー。当社製品は様々な分野での研究や技術開発・品質管理などに用いられている。足元では米国などで合法化が進む大麻の成分分析用途が急拡大している。中国でも環境・安全用途の計測機器の需要が伸長。その他、医療用X線装置を主力製品とする医療機器、防衛省や米国ボーイング社向けのフライトコントロール機器や表示機器などを供給する航空機器、半導体製造装置向け等のターボ分子ポンプ、フォークリフトや建機向けの油圧機器、ガラスワインダー（ガラス繊維紡織機）などを製造している産業機器のセグメントを持つ。

◇19.3期売上高構成比



(出所) 島津製作所資料よりCAM作成

計測・産業セグメントの伸長が業績をけん引

19.3期の連結業績は、売上高が3,912億円、前期比4%増、営業利益が445億円、同4%増。航空は18.3期に防衛省向けの一括納入があり、今期はその反動で減収減益となったが、計測・産業の伸長により、6期連続の増収増益となった。計測は環境・食品安全分野で質量分析計が拡大、中国で水質モニターなどの環境機器も伸長した。産業は期後半に半導体市況の影響を受け停滞したターボ分子ポンプを、セラミックス・超硬工具向けの真空熱処理炉の大幅拡大でカバーした。利益面では、戦略的な費用増を増収や採算率改善で補った。

19.3期の会社計画は、売上高が4,100億円、前期比5%増、営業利益が470億円、同6%増。全主要セグメントで増収増益の計画。業績のけん引役は主力事業である計測で、液体クロマトグラフや質量分析計の新製品などが寄与しよう。同計画は研究開発の強化、設備投資の拡大など成長に向けた投資拡大を織り込んだもの。前提為替も1ドル=105円と、保守的に現行水準より若干円高に設定されている。

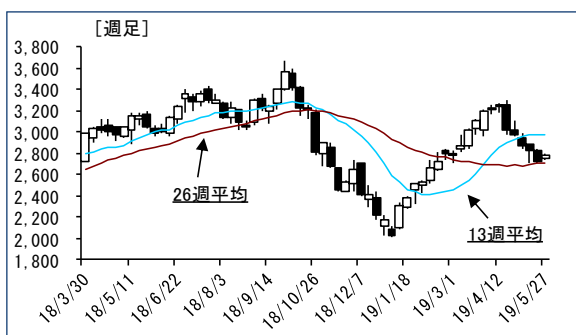
[株価動向・投資判断]

戦略的な費用増を採算率向上などで補い最高益を更新していることを評価したい。新製品投入によりさらなる競争力強化も期待できよう。中期視点の投資対象として注目したい銘柄。

<7701 島津 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	376,530 (10)	42,822 (15)	41,871 (13)	29,838 (13)	101.3	24.00
19.3	391,213 (4)	44,480 (4)	45,462 (9)	32,523 (9)	110.4	28.00
20.3 予	410,000 (5)	47,000 (6)	47,000 (3)	34,000 (5)	115.4	30.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価 (2019/5/27)	2,780 円
年初来高値 (高値日)	3,300 円 (19/4/15)
同 安値 (安値日)	2,008 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	24.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	977.3 円
P B R	2.84 倍
予想配当利回り	1.08 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E (19.3)	11.7 %
発行済み株式数	29,607 万株